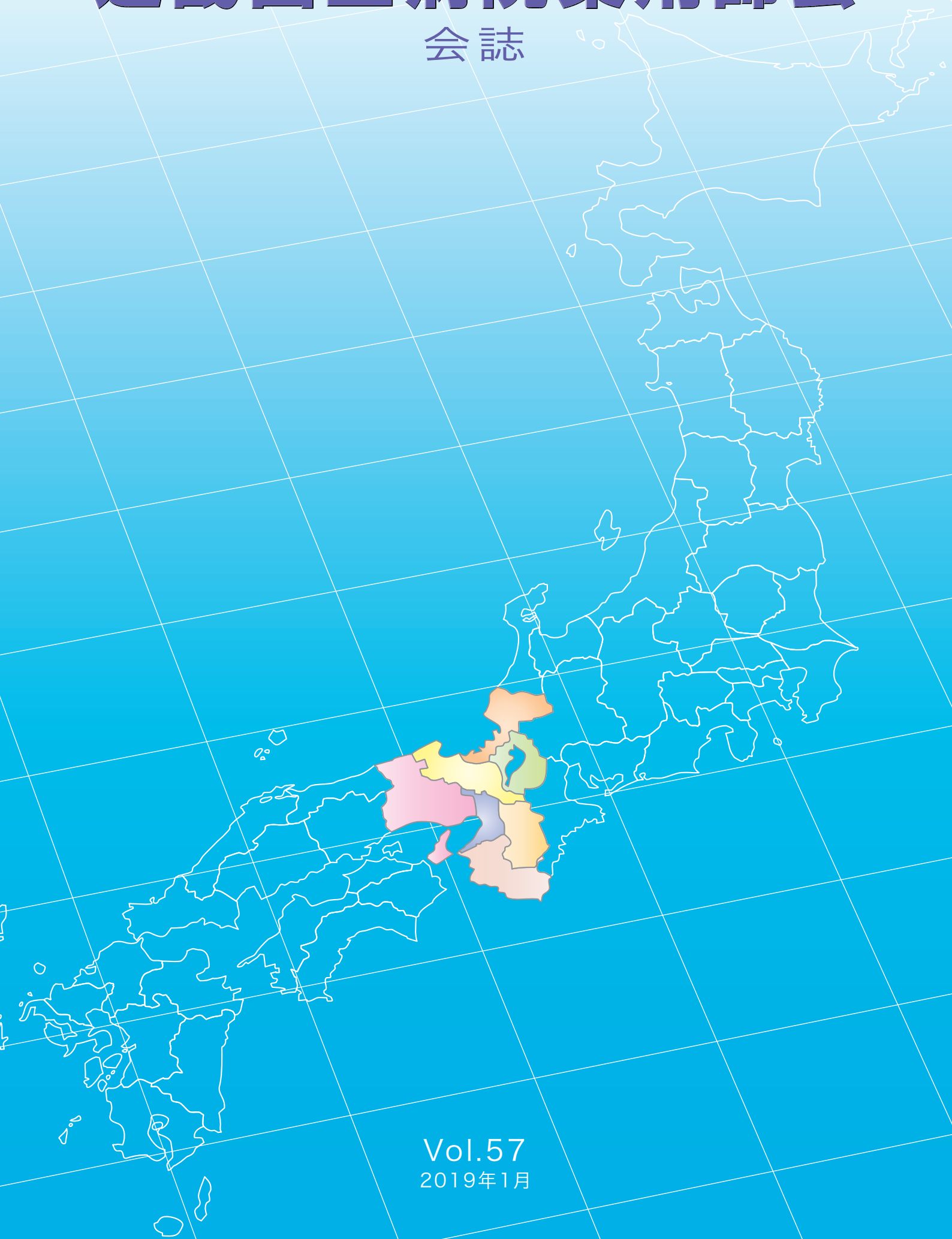


近畿国立病院薬剤師会

会誌



Vol.57
2019年1月

目 次

新年のご挨拶.....	2
	京都医療センター 本田 芳久
提言.....	3
	やまと精神医療センター 續木 康夫
薬剤部紹介.....	4
	和歌山医療センター 福田 利明
2019 年度近畿国立病院薬剤師会総会講演報告.....	6
	あわら病院 朝日 信一
2019 年度近畿国立病院薬剤師会総会報告.....	8
	東近江総合医療センター 横山 晋一郎
2019 年度総会において開設されたキッズスペースについて.....	11
	京都医療センター 神林 由樹
第 28 回医療薬学会に参加して.....	12
	京都医療センター 安達 晃一郎
新採用者紹介.....	13
趣味のページ.....	14
	国立循環器病研究センター 高野 舞
編集後記.....	15

新年のご挨拶

近畿国立病院薬剤師会 会長
京都医療センター 本田 芳久

新年明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかに新春をお迎えることとお慶び申し上げます。平素は、近畿国立病院薬剤師会の運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、2期目の会長就任より1年が経ちました。昨年は、『飛翔』のスローガンのもと、さらに若返った理事メンバーを中心に、様々な事業を行いました。一つ一つの事業を通して皆様と一緒に飛び翔けることができたと思います。

今年のスローガンは『挑戦』です。今年は様々なことに『挑戦』したいと考えています。

まずは、『教育への挑戦』。一昨年、近畿国立病院生涯教育センター(KLEC：Kinki National Hospital Lifelong Education Center)を設立し、すでに100名以上の認定薬剤師と3機関の外部エージェンシーを輩出しています。今年は、医療従事者専用サイトm3.comからの依頼もあり、教育研修委員会とのコラボレーションによるコラム掲載の予定です。10月のシンポジウムで取り上げた症例をQA方式でm3.comに掲載し、広く全国の医療関係者へ向けアピールする準備をしています。また、KLECのホームページをm3.com内に作成し、講演会等の参加申し込みができるように進めています。



次に、『働き方への挑戦』。当会の半数以上が女性であり、お子さんを持つ女性の働く環境の整備が急務となっています。当会では働き方改革の第一歩として、働くママさん薬剤師の薬剤師会事業への参加を応援します。女性薬剤師にとってより働きやすい職場作りを目指して挑戦します。

3つ目は、『昇任への挑戦』です。これからの2年で10名もの薬剤部科長が退職を迎えます。言い換えれば、新しい薬剤部科長が10名誕生します。それに伴い、副薬剤部長、主任薬剤師が昇任します。皆様は自分が昇任する準備はできているでしょうか？日頃から昇任する準備、つまり一つ上の役職の仕事を意識して働くことができているでしょうか？役職者の席の数は決まっています。

皆様のチャレンジ精神に期待し、実り多き年となることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

提言 ～活性化するという事～

やまと精神医療センター 續木 康夫

昭和 60 年 12 月に現大阪医療センターに非常勤薬剤師として採用されて 33 年が経過し、沢山の出会いと色々な先生方のお世話になり、まだまだ未完成の自分ではありますが、国立という恵まれた環境で働かせてもらい成長させていただいたと思っております。今まで、大別して調剤中心の中央業務、がん患者中心の臨床業務を経験し現在に至っています。誰しも医療職（薬剤師）になった方は、患者さんに貢献したいとの志を持って病院を選択したのだと思います。

仕事で一番大切なものとは考えると、患者さんへのサービス提供のため、業務効率のため、臨床研究のため、人材育成のため或いは経営のため等、目的は様々ですが、患者さんへの対応はこのようにしたい、業務を変更したい、このような方向に進みたいという思い、考えや志だと思えます。その実現のためにプランを考え、P D C A サイクルを回そうとします。当然、上司の許可が必要なものなど他の職員との調和がとれていなければなりません。物事を成就させるためには何より人の協力が不可欠です。周り全員が協力的であれば良いのですが、プラン実現のためには、苦手な方や矛盾する出来事に必ず当たるのではないのでしょうか。身近な職場での関係も、つい相手を決めつけて境界線を引いてしまい、あの人はこういう人だから言っても通じないと垣根を作ってしまう。相手を冷静に客観的に見て受け入れ、勇気を持って苦手な相手にも一歩踏み出しコミュニケーションをとれば、本気にこそなれば不完全な自分でも壁は越えられるものと思っております。そのチャレンジが自分を成長させるものと考えます。現状においても各個人は P D C A サイクルを回していることと思えます。1 人 1 人が動くと周りが動き、大きな動きウェーブになります。そのことが活性化するという事と考えます。また、その動きは楽しくなければ本物ではないとも思っております。

私のテーマは「切れ間のない薬剤師の患者さんへの関わり」です。入院から退院、外来に至るまで必要時に薬剤師が関わり薬学的管理指導を実践するという事を具体化したいと考えています。現施設ではまだまだできていない部分が多いです。他職種の施設職員だけでなく、地域の保険薬局とも連携して患者さんを中心に关われるオール薬剤師で対応できればと考えています。患者さんが安心して日々を送れるよう、また患者さんのお陰で仕事があることをいつも忘れず取り組みたいと思っております。

能力を持った先生方 1 人 1 人がこうしたいという強い思いを持って、変化していく未来に向け、理想的な薬剤師業務を実現させていただきたいと切に希望いたします。

薬剤部紹介



独立行政法人 国立病院機構
和歌山病院

当院の所在する御坊医療圏は和歌山県の中央に位置し、「煙樹ヶ浜の松林」の中に立地しています。



病床数は310床（一般135床、結核15床、重症心身障害児(者)病床160床）です。標榜診療科は、呼吸器内科、循環器内科、呼吸器外科、脳神経内科、内科、外科、心臓血管外科、放射線科、小児科、リハビリテーション科、歯科の11診療科です。

【沿革】

沿革は、昭和19年に「日本医療団延寿浜園」として創設され、「国立療養所延寿浜園」、「国立療養所和歌山病院」と改称を経て現在に至っています。

平成28年4月には新病棟が開設、同年8月にヘリポートが開港されました。



新病棟は津波被害を想定し病室は流されないように2階より上のフロアーになっています。

当院は、一般診療とセーフティネット医療を行っており、一般診療においては呼吸器内科、脳神経内科、胸部・血管外科系の疾患、及び放射線治療、セーフティネット医療においては重症心身障害、神経難病、結核に対する診療を行っています。和歌山県内で唯一の内科・外科を一体化させた呼吸器センターを設置し、急性期から慢性期、積極治療から緩和医療に至るあらゆる診療を行っています。セーフティネット医療では、県内最大（160床）の重症心身障害児(者)病床に加え、医療度の高い患者さんを受け入れ、医療・福祉両面からのケアを行っています。神経難病では、県内の神経難病ネットワークの基幹2施設の1つとして、県内の患者さんに対する支援、受け入れに取り組んでいます。結核に関しては、県内で唯一

の結核入院施設であると同時に、県内各保健所の保健師を一堂に会した DOTS 会議を毎月開催し、保健医療に対しても貢献しています。

【薬剤部紹介】

薬剤部スタッフは薬剤部長、薬務主任、常勤薬剤師 5 名と非常勤薬剤助手の計 8 名です。

平成 30 年 4 月より職種ごとのユニフォームに変わりました。

(当紹介ページの背景はユニフォームカラーをイメージしてみました。)



■ 調剤業務

電子カルテシステム、散薬監査システム、水薬監査システムを用い、安全チェックを行っています。平成 30 年 12 月に散薬調剤ロボット mini DimeRo を導入し、さらなる業務の効率化に取り組み始めました。

重症心身障害児(者)病棟においては従前から行っている錠剤及び散剤の縦割り一包化調剤を継続実施することにより、安心・安全な医療提供の下支えに努めています。

■ がん化学療法

平成 21 年度より、がん化学療法委員会を開催しておりますが、開催に係る事務局業務からレジメン・マスター管理の全てのハンドリングを薬剤部が担っております。現在の登録レジメン数は、肺がん、乳がんを中心に 68 種 84 件となります。抗がん剤の無菌調製は、レジメンチェック後、安全キャビネットにて行っております。

■ 病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

平成 28 年 4 月より一般（結核）の 2 病棟において病棟薬剤業務を開始しました。当院の特色である呼吸器内科（結核含む）をはじめ、外科、脳神経内科病棟において、薬剤管理指導を実施しています。薬剤管理、持参薬管理、服薬指導、退院時指導等の患者介入をとおして、入院から退院まで途切れることなく患者さんに安心で安全な薬物療法の支援提供ができるよう日々努めております。

■ チーム医療の推進

NST、褥瘡、摂食嚥下、ICT、PCT の各チームに薬剤師が積極的に参画しています。

■ 地域連携及び教育研修

近隣 3 病院と日高地区薬剤師会との合同勉強会及び、日高・有田地区病院薬剤師研修会（隔月開催）の幹事施設として積極的に参加し、地域連携及び教育研修にも力を注いでいます。平成 30 年 7 月に日高・有田地区の薬剤師会と「院外処方箋疑義照会のプロトコル化」について合意し、同年 8 月から運用開始し地域との連携を深めているところです。

（文責 福田利明）

あわら病院 朝日 信一

講演Ⅰ：「バイオシミラーについて

～バイオシミラー？ジェネリック医薬品？患者さんへの説明は？～」

日時：2019年1月12日（土）15：30～16：00

場所：ハイアットリージェンシー大阪

講師：南京都病院 副薬剤部長 永井 聡子 先生

本講演では、①先行バイオ医薬品について、②バイオ後続品（バイオシミラー）について、③後発医薬品とバイオ後続品の違い、④診療報酬の変遷、⑤医療費控除などについてご教授頂いた。

バイオ医薬品とは、微生物や動物細胞などを用いて作られる非常に分子量の大きな（1万～10万以上）薬品であり、特徴として生産が不安定なこと、原薬には不純物が含まれることなどがある。バイオシミラーは、糖鎖などを先行品と一致させることは困難であるが、アミノ酸配列は先行品と同一であり、同等性/同質性が検証されているものである。後発医薬品が先行品と同一であるのに対し、バイオシミラーは同一ではなく、変わりに同等性/同質性が検証されているものとなっている。そのため、バイオシミラーでは同等性/同質性の検証のために臨床試験が必要となっている。診療報酬上では、後発医薬品・バイオ後続品をより多く使用することで報酬が上昇する仕組みとなっており、医療費削減を目指した対策がとられている。特に生活保護の患者に対しては、2018年10月より原則として後発医薬品（バイオシミラーを含む）による投薬を行うように定められた。

講演全体を通して、バイオシミラーの特徴、求められる背景についてよく知ることができ、今後はバイオシミラーについてより深く、適正な情報提供に努めていく必要があると実感できた。

講演Ⅱ：「関節リウマチにおける最新の薬物治療」

日時：2019年1月12日（土）16：00～17：00

場所：ハイアットリージェンシー大阪

講師：大阪南医療センター リウマチ・膠原病・アレルギー科 免疫疾患センター
部長 大島 至郎 先生

本講演では関節リウマチという疾患についてと、関節リウマチに対する最新の薬物治療についてご教授頂いた。

関節リウマチは関節痛がファースト・コンタクトとなることが多い疾患であるが、関節痛を訴える人全員からの内訳としてみると、変形性関節症が2000万人に対し関節リウマチは約100万人と比較的少ない疾患である。発症原因は現在も不明で40～49歳が発症のピークにはなるが、全年齢にわたり発症する可能性がある。経過には単周期型、多周期型、急速進行

型などのパターンがあり、経過に合わせた治療が大切になる。

発症原因は不明であるものの、免疫異常が起こってから関節破壊に至るまでのメカニズムは徐々に分かってきており、このメカニズムをピンポイントで抑制する生物学的製剤が開発され使用されてきている。例えば関節リウマチでは関節局所の破骨細胞が活性化されることがわかり、TNF- α に着目してインフリキシマブが開発された。

このような生物学的製剤は優れた臨床効果を発揮する一方、高い薬価、感染症リスク、原因療法にはならないなどの問題もあり、光と影がある状況である。特に高薬価は患者の負担になりやすいが、バイオシミラーを使用することで負担軽減が期待できる。バイオシミラーの今後の課題としては、開発企業の信用性の拡大とエビデンスの積み重ねなどがある。

関節リウマチの新しい治療戦略として、より早い時期から生物学的製剤を考慮する方向になってきている。これは関節・骨の破壊は予想以上に早期から始まっていることが分かってきたからである。特に活動性の関節リウマチでは、なるべく早く寛解に持ち込むことが大切となる。

最後に、大阪南医療センターでは登録リウマチケア薬剤師が1名在籍しており、薬剤師も大切な関節リウマチチームの一員となっているとのことであった。自分も生物学的製剤やバイオシミラーについてしっかりと学習し、薬剤師としてチーム医療に結び付くような活動に取り組んでいきたいと感じた。

2019年度 近畿国立病院薬剤師会総会報告

東近江総合医療センター 横山 晋一郎

2019年度 近畿国立病院薬剤師会総会が、2019年1月12日（土）ハイアットリージェンシー大阪にて開催された。関本副会長の開会の辞より総会が開始となり、本田会長より本年のスローガン『挑戦』をテーマに年頭の挨拶を頂いた。引き続いて上野薬事専門職より、我々薬剤師を取り巻く現状と今後の課題についてお話を頂いた。

議長には京都医療センター 粉川副薬剤部長が選出され、平成30年度事業報告、会計報告、会計監査報告があり、全て承認された。続いて、細則変更、2019年度事業計画案、予算案について審議され、全て承認された。その他として、関本副会長より「薬剤師会のあり方を考える会議」についての説明があり、その後、部会紹介と薬剤師の集いの案内が行われた。最後に河合副会長の閉会の辞をもって総会が終了した。

日 時：2019年1月12日（土） 13：00～14：55

場 所：ハイアットリージェンシー大阪

出席者：215名、委任者109名（会員数335名）

会則12条5項に従い、会員過半数出席により総会が成立

司 会：関本副会長（神戸医療センター 薬剤部長）

開会の辞：関本副会長（神戸医療センター 薬剤部長）

議 長：粉川副薬剤部長（京都医療センター 副薬剤部長）

閉会の辞：河合副会長（東近江総合医療センター 薬剤部長）

1. 報告事項

(1) 平成30年度事業報告

① 事業報告

本田会長（京都医療センター）より事業報告がなされた。

② 委員会報告

本田会長（京都医療センター）より委員会報告がなされた。

③ 地区会報告

各地区理事より活動報告があった。

- | | |
|--------------|---------------------|
| ・京都北部・福井地区 | 朝日地区理事（あわら病院） |
| ・京都南部・滋賀地区 | 喜田地区理事（京都医療センター） |
| ・兵庫南部地区 | 木原地区理事（神戸医療センター） |
| ・大阪北部・兵庫東部地区 | 森田地区理事（兵庫中央病院） |
| ・大阪南部地区 | 小林地区理事（近畿中央呼吸器センター） |
| ・奈良地区 | 中澤地区理事（奈良医療センター） |
| ・和歌山地区 | 松本地区理事（和歌山病院） |

2. 審議事項

(1) 平成 30 年度会計報告

桶本経理担当理事（近畿中央呼吸器センター）より、平成 30 年度会計について報告があった。

(2) 平成 30 年度会計監査報告

吉野監査役（宇多野病院）より、平成 30 年 12 月 17 日に平成 30 年度会計監査が実施され、適正かつ正確であるとの報告があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

(3) 近畿国立病院薬剤師会 細則の変更

本田総務担当理事（東近江総合医療センター）より、病院名称変更に伴い近畿国立病院薬剤師会細則の記載について、近畿中央胸部疾患から近畿中央呼吸器へと変更する旨の説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

(4) 2019 年度事業計画案

① 総務

2019 年度事業計画案について、本田総務担当理事（東近江総合医療センター）より説明があった。

② 企画

2019 年度事業計画案について、中野企画担当理事（京都医療センター）より説明があった。

③ 広報

2019 年度事業計画案について、山下広報担当理事（京都医療センター）より説明があった。

④ 委員会

2019 年度事業計画案について、各委員長より説明があった。

- ・教育研修委員会 續木委員長（やまと精神医療センター）
- ・臨床研究推進委員会 福田委員長（和歌山病院）
- ・医薬品安全管理委員会 森委員長（刀根山病院）
- ・チーム医療委員会 岸本委員長（兵庫あおの病院）

⑤ 2019 年度予算案

桶本経理担当理事（近畿中央呼吸器センター）より、2019 年度予算案について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

3. その他

- ・2019年度「薬剤師会のあり方を考える会議」について、関本副会長よりプロジェクト立ち上げの背景・目的・構成メンバー・期間および会議回数・予算について説明があった。

以上について審議の結果、賛成多数で承認された。

- ・各部会の代表者より活動目的、運営方針の紹介があった。
- ・2019年度の「薬剤師の集い」幹事地区を代表し、福田薬剤部長（和歌山病院）、松本地区理事（和歌山病院）より、開催日程・宿泊施設の紹介と参加案内についての説明があった。

2019 年度総会において開設されたキッズスペースについて

京都医療センター 神林 由樹

子供を持つ薬剤師の事業への参加が難しいことから、今回の総会よりキッズスペースが開設された。参加人数は子供 6 名、保護者 6 名（京都医療 3 名、大阪南医療 1 名、兵庫中央 1 名、敦賀医療 1 名）であった。場所は前年同様ハイアットリージェンシー大阪、総会会場に隣接した理事会用の部屋の一部を区切り用意された。キッズスペースには転倒予防のマット、ボールプール入りテント、アンパンマンの滑り台、絵本、ブロック、電車の玩具、DVD、プロジェクターなどが用意されており、授乳用のスペースにはポットも用意されていた。転倒防止のマットは今回のために購入、他の玩具は会員により用意されたとのこと。参加した子供達は用意された玩具で楽しそうに遊んでいた。子供たち同士は初対面であったが、喧嘩することもなく時間が経つにつれて打ち解け、仲良く一緒に遊んでいた。会場には子供達のはしゃぐ声や泣き声は届かなかったためのびのび遊べていた。

会員は、キッズスペース横のスペースで保育をしながら総会会場の様子をパソコンにて閲覧できた。また、他施設の保育園情報や時短勤務での働き方事情などの情報交換ができ、働く親同士のそれぞれの現状を知る良い機会になった。休憩時間には総会会場との間の扉も開放され、色々な施設の会員とも交流することができた。講演会終了後、用意された玩具のアルコール消毒や片づけも、準備同様に複数の会員で行ってくださった。

懇親会では子供用の食事はなかったものの子供も食べられるものも多く、会場で様々な人との接触もあり良い刺激になったと思われる。

参加した子供達も、「楽しかった、また行きたい」と言っており、親だけでなく子供にとっても参加しやすい環境であったと感じられた。

今後、子育て世代の薬剤師が増えていく環境において、仕事を続けていく上でこのような交流はとても有意義であると思われる。



第28回医療薬学会に参加して

京都医療センター 安達 晃一郎

私は11月に神戸で開催された第28回医療薬学会年会に参加しました。今回の学会において私は、持続的低効率血液透析(SLED) 施行中患者のバンコマイシンの体内動態に関する発表を行いました。私の発表は1例報告という形でしたが、コホート研究や、トランスレーショナルリサーチ等、様々な研究手法による発表が行われており、日々の業務の中には多くの臨床クエスチョンが埋もれているということを改めて感じました。また、数々の講演を聴講する中で、大学病院のような施設でなくとも、研究手法の工夫次第で様々な研究が可能だということにも気づかされました。

本学会では医療用AIの進歩についての講演もあり、自動で文献検索を行い必要な情報を抽出するだけでなく、要約までしてくれるという内容にはただ驚くばかりでした。物事に対する人の興味というものは、現在のところ、AIには真似のできない領域であると思います。

近年、薬剤師によるリバーストランスレーショナルリサーチの必要性が謳われています。日々の業務を通して小さな臨床上の疑問や問題を見つけるだけでなく、臨床研究によりそれらを解決していけるよう、精力的に励んでいきたいと思います。

第28回 The 28th Annual Meeting of the Japanese Society of Pharmaceutical Health Care and Sciences
日本医療薬学会年会

医療薬学の持続的進化のための新たなパラダイム構築
~教育・臨床業務・研究~

2018年
11月23日(金・祝)~25日(日)
神戸コンベンションセンター
神戸国際会議場 神戸国際会館 神戸ポートピアホテル

2018年 事務参加期間表
4月26日(木)~9月20日(木)

千歳 年昭 (岡山大学病院 教授・薬剤部長)
一般社団法人日本医療薬学会
<http://convention.jtbcom.co.jp/28jphcs/>



新採用者紹介

～①氏名 ②施設 ③出身大学 ④座右の銘、好きな言葉 ⑤抱負～

- ① 石川 晋平(イシカワ シンペイ)
- ② 京都医療センター
- ③ 兵庫医療大学
- ④ 博文約礼

一月より京都医療センターに入職いたしました石川晋平です。昨年卒業したばかりで知識や調剤の技術など多くのことがまだまだ未熟ですが、ご指導いただいている先輩方より多くのことを学ぶとともに、自分でも見識を広めていく努力をし、早く一人前の医療人になれるよう頑張りたいと思っております。今後もいろいろとご迷惑おかけすることがあると思いますがご指導のほどよろしく願いいたします。

趣味のページ

国立循環器病研究センター 高野 舞

宇多野病院の山階先生からバトンをいただきました。国立循環器病研究センターの高野 舞と申します。

最近よく行く脱出ゲームについて書かせていただきます。

脱出ゲームは制限時間内に謎や暗号を解いていくことで閉じ込められた部屋から脱出できる、という設定のゲームです。脱出ゲームには色々なストーリーがあり、参加者は登場人物の一員としてゲームに挑戦します。出題される問題を解き明かしていくことで新たな道を発見したり、道具を取得したりと物語が進行していきます。

どの参加者も開始 10 分もすれば立派な登場人物の一員で、そのため問題が解けないと全く話が進まず、焦って会場を右往左往…。脱出失敗が悔しく、すぐに別の公演でリベンジというのも珍しくありません。

私は学生時代の友人と行くことが多いのですが、脱出への熱意はすさまじいものでメンバーの 1 人によって問題が解けていないのにダイヤル錠を手の感覚で解錠してしまう奇跡が起きたことも！しかし喜んだのもつかの間、問題が解けていたわけではないので次の問題でつまずいてしまうことに。やはりズルはだめですね（笑）

20 公演くらい参加したでしょうか。最初の頃は脱出成功は夢のまた夢…という状態でしたが、今では 2～3 回に 1 回は脱出成功できるように。どの公演も成功率が 10%前後と低めに設定されているので、問題が解けて脱出成功した時の達成感はひとしおです。

そんなこんなでどっぷりはまってしまい、ついに大阪公演では飽き足らず去年は夏休みを利用して 1 人で東京公演に遠征しに行ってきました。見知らぬカップルや女子会のテーブルにお邪魔してしまいましたが、どの公演も見事脱出成功することができました。始めて会う人ともすぐに打ち解けて協力出来るのも脱出ゲームのいいところかもしれません。

最近では遊園地などでも開催していることもあるので、興味がある方は誘っていただけると嬉しいです！

今回は敦賀医療センターの山本先生にお願いしています。敦賀医療センターの先生方は多趣味な方が多いとお聞きしていますので、今から楽しみです。よろしくお祈りします。

編集後記

- ♪ あけましておめでとうございます。
今年も1月、5月、8月、11月と4号発行致します。皆様に楽しんで頂ける会誌を目指して頑張りますので、是非ご覧ください。
また、多数の方に原稿をお願いさせて頂くことになると思います。ご協力の程よろしくお祈りいたします。
- ♪ 最後まで、お読み頂きありがとうございます。今月号は、新年のご挨拶にはじまり、提言、施設紹介、総会・講演会報告など盛りだくさんとなっています。総会時に初めて試みられたキッズルームの紹介も寄稿頂きました。キッズルームを準備する側の私としても、とても楽しく過ごすことができました。
今年が、皆様にとってよい年になることをお祈り致します。

広報担当理事 山下 大輔

近畿国立病院薬剤師会誌

第五十六号 平成31年1月発行

発行元 近畿国立病院薬剤師会事務局

京都市伏見区深草向畑町1-1

(独立行政法人国立病院機構京都医療センター薬剤部内)

発行人 会長 本田 芳久 (京都医療)

編集 広報担当理事 山下 大輔 (京都医療)

広報委員 小田 亮介 (京都医療)

藤原 佐知子 (大阪南医療)

喜田 孝史 (京都医療)

中西 剛志 (姫路医療)